



明和病院だより



2015年2月号

(1) 医師から皆様へ

〈 こどもの食物アレルギー ① その食事制限、正しいですか？ 〉

最近、食物アレルギーが心配だがどうしたらいいかとの相談を受けることが多くなりました。実際食物アレルギーの子供は増えていますが、一方アレルギーの可能性は極めて低いのに不安をもたれている方もとても多いです。これは育児雑誌やネットなどに情報が氾濫していることや学校給食での事故が報道されたことが原因と思われる。



以前は湿疹がひどいお子さんは血液検査や皮膚テストをして疑いのある食品は食べさせないという方針が主流でした。しかし、最近専門家の間ではその方針が食物アレルギー患者を増やした一因ではないかとまで言われています。

生物には侵入物から身を守るため免疫という機能が備わっています。この機能の異常でおこる病気の一つがアレルギーです。食物アレルギーでは体の中に取り込んだ食品を侵入物と誤認して排除の反応が起こるため症状が出るのです。

ではなぜアレルギーが無い人は食べ物を体内に取り込んでも免疫反応を起こさないのでしょうか？食べ物は生きるために必要なものですが、体から見れば外から入ってくる異物＝侵入物なのに不思議だと思いませんか。最近この免疫の仕組みについての理解が急速に進んでいます。人が生きていく限り消化管には常に食物＝異物が入ってきます。このため消化管にはこれは侵入物(体に害のあるもの)では無いんだと学ぶための機能が備わっていることが分かってきました。これを免疫寛容といいます。小さい子どもが口にすることは、初めてのものばかりです。このため子どもの消化管は生きるために必要な食物を学び受け入れるため、免疫寛容を誘導する能力が高いと考えられます。ですからこの時期にいろいろな食品を食べさせることが異常なアレルギー反応を起こさない体に育つために必須なのです。アレルギーをおそれ小さい頃に食べさせないという方針をとることが、かえってアレルギーのお子さんを増やしてしまったと考えられるのはこのためです。

それでも血液検査で陽性と言われたり、食べて発疹が出たりすると本当に食べさせて大丈夫なのか悩みますよね。この判断には、実際に食べてみてどの程度症状が出るのかを客観的に評価する必要があります。これを経口食物負荷試験といい

ます。強い症状が出ることもあるので医療体制の整った環境での実施が望まれます。また、この結果から方針を決めるには、多くの経験と最新の医学知識が必要です。上にお話したように中途半端な知識での方針決定は有害です。当院小児科では、専門外来で相談・検査・治療を積極的に進めています。不安をお持ちの方はぜひ一度ご相談ください。



3月号に「こどもの食物アレルギー ②」へと続きます。

小児科 部長 川越 里佳

(2) 医療講座(公民館主催)のお知らせ

- ・演 題 : 白内障のはなし
- ・講 師 : 眼科部長 田中 久子
- ・日 時 : 2月18日(水) 14:00~15:30
- ・場 所 : 鳴尾東公民館(Tel. 49-1300) ※無料(参加自由)



(3) 「心のうたコンサート」のお知らせ

今年から従来の「ロビーミニコンサート」に変わり、「心のうたコンサート」を2月は開催することとなりました。心の片隅に懐かしい思い出とともに眠っている歌を、心をこめてお届けします。

- ・日 時 : 2月25日(水) 15:30~16:30
- ・場 所 : 中央館4階ロビー
- ・内 容 : 日本のうた、童謡、唱歌



(4) 看護助手を急募!

看護助手を募集しています。一緒に明和病院で働きませんか？
詳細は総務課(代表 0798-47-1767)までお電話にてお問合せください。

- ・求 人 数 : 若干名(勤務開始日は応相談)
- ・職務内容 : 看護助手業務(病棟)
- ・必要資格 : なし
- ・勤務形態 : パートタイマー



(編集発行人 事務部長 沖田 明弘)